

MSC ベリッシマ 東京発着日本一周クルーズ(その 1)

2024.11.17 池田良穂

11/14 乗船当日

東京発着クルーズのため、大阪在住の筆者にとってはフライ&クルーズとなります。自宅に近い関西空港から 11 時発の ANA 機で羽田空港に向いました。羽田空港からは、京急、ゆりかもめと乗りついで、東京クルーズターミナル駅に 14 時頃到着。同駅ホームからは、エスカレーターはなく、エレベーターが 1 基だけだったので、大きな荷物をもつ乗客で長蛇の列になっていました。駅からクルーズターミナルまでバスでの移動も可能だったようですが、近いので徒歩で移動しました。ターミナルの玄関でスーツケースを預かってもらった後、ターミナルの 3 階に登ってチェックイン。チェックインはパスポートをスキャンするだけで簡単に終わり、イミグレ・カスタム共になく、乗船記念写真を撮ってもらってすぐに乗船できました。15 階のビュッフェレストラン「マーケットプレース」は、まだ部屋に入れない乗客で満席状態で、料理をとつてからプールサイドのビーチチェアに移動して遅い昼食をとりました。15 時過ぎに「キャビンが使える」とのアナウンスがあったので、14 階の 14092 室へ。インサイドキャビンでコンパクトな部屋ですが、バス・シャワーもあり、エレベータホールも近く、15 階のレストランにも階段をあがるとすぐに行けて便利な場所でした。前回の同船のクルーズではバルコニーキャビンを使ったのですが、若い頃には、キャビンは寝るだけなので安いインサイドで十分と思っていたことを思い出して、今回はインサイドキャビンにしてみました。

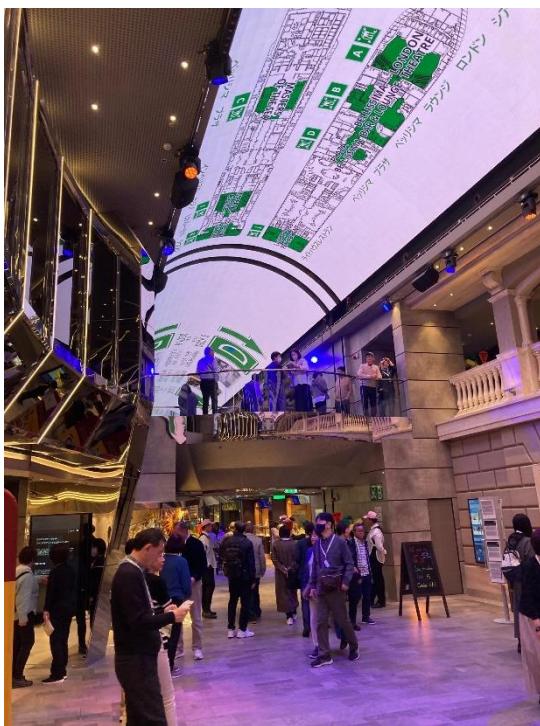


東京国際クルーズターミナルに着岸する「MSC ベリッシマ」



インサイドのキャビン

大型客船の避難訓練は必ず出航前に実施することが、クルーズ客船「コスタ・コンコレディア」の海難を契機に義務付けられおり、15時45分から部屋のテレビで避難訓練のテレビ(日本語)を見て、指定の番号に部屋から電話を入れて、さらに16時の避難信号を聞いてから実際の避難訓練に参加しました。筆者のキャビンの避難時集合場所は7階のカジノの前に指定されており、船員にクルーズカードをスキャンしてもらって終了。避難集合場所には、ライフジャケットが格納された倉庫がありました。昔のように、各キャビンからライフジャケットを着て避難集合場所に向かう姿は見られなくなりました。



避難経路となるプロムナードの天井には避難経路のサインが映し出されていました。



避難集合場所の倉庫の扉が開いていて、収納されているライフジャケットが見えました。

避難訓練の後 15 階のブュッフェレストランに上がると、外はもう暗くなっていました。果物とコーヒーで一服。その後、部屋に戻って、届けられたスーツケースを空けて、室内のクローゼットに収納して、いよいよ出港を待ちます。プールサイドでは出港パーティが行われて、乗客の踊りの輪が広がっていました。

予定の 19 時より少し前に、MSC ベリッシマは東京国際ターミナルの岸壁を離れて東京湾へと出港しました。いよいよ 10 日間の日本一周クルーズです。



ターミナルを離れた「MSC ベリッシマ」からクルーズターミナルを眺めました。

夕食は 20 時からレストラン「イル・チリエッジョ」でセカンドシーティングに指定されていました。ぎっしりとテーブルが配置されていて、かなり窮屈。これは大定員のカジュアルクルーズ船の宿命とも言えます。料理のメニューは、前菜、スープ、パスタ、メイン料理、デザートと別れていて写真付きでした。イタリア人のシェフとのことで、イタリア系の食事はなかなか美味しい味付けでした。飲み物はアルコール類も含めて無料でした。

食事の後は、ロンドンシアターでのショーを観ました。ニュージーランドから来たというジャグリング演者で、片言の日本語で観客を沸かせていましたが、よくボールやピンを落とす失敗もしていました。まあ愛嬌なのでしょう。



いつも食前酒はシャンパンバーでいただきました。



筆者が指定されたレストラン「イル・チリエッジョ」



夕食のメイン料理



食後のショー

クルーズ 2 日目

この日は終日航海日で、MSC ベリッシマは東北沿岸に沿って太平洋を北上しました。ほとんどを 18 階にある展望ラウンジで本を読みながら過ごしました。午前中は雨で視界も悪く、陸地も船も見えませんでしたが、午後には空も明るくなりました。昼食はダイニングルームの 1 つでとりましたが、味がいまひとつで筆者の好みとは合いませんでした。

昼過ぎからは薄日も差すようになり、金華山沖では陸地を遠望することができましたが、期待していたシップウォッチングについては、その成果は皆無でした。

この日の夜はフォーマルナイトで、ロンドンシアターで船長以下の士官の紹介がありました。MSC クルーズの本部はイタリアにあるためもあってか、船長以下の航海・機関系の高級士官はイタリア人が中心でしたが、サービス部門は国際化が進んでいました。

その後プロダクションショーがありました。専属キャストによる歌と踊りで、欧洲を列車で旅をするというテーマで、最後は MSC クルーズの本拠地のイタリアでした。またプロムナードの一画では、船長との記念写真の撮影がありましたが、長蛇の列だったのでスキップしました。



18階の展望ラウンジ



フォーマルナイトの夕食ではロブスターが出ました



挨拶する船長



壇上には士官が並びました。



ロンドンシアターではプロダクションショーが繰り広げられました。

クルーズ 3 日目

函館港には 8 時の入港予定でしたが、日が昇る 6 時半にデッキに言った頃には、すでに船は港内に入っていました。津軽海峡フェリー(旧東日本フェリー)のターミナルには「ナッチャン World」の姿と青函航路の「ブルールミナス」が着岸しており、青函フェリーのターミナルには「はやぶさ II」が停泊していました。MSC ベリッシマは、この 2 つのフェリーターミナルの間にある岸壁に、予定より 1 時間近く早く 7 時に着岸しました。

停泊中の「MSC ベリッシマ」の船上からは、函館港出入港する「大函丸」、「あさかぜ 21」、「ブルーハピネス」などのフェリーの姿を撮影することができました。午前中は順光ですが、午後からは逆光になります。

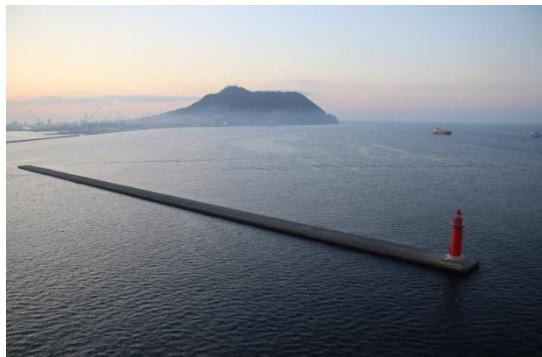
ジャパネットのチャータークルーズでは、全ての港で無料循環バスが運行されていました。函館では、岸壁から函館駅、赤レンガ倉庫、五稜郭をまわるルートで、バスの台数も多くて、長時間待たされることもなくとても便利でした。

筆者は函館駅横の朝市を見た後、近くのうに料理で有名なレストランで昼食をとり、タクシーで函館山のすそ野にある谷地頭温泉でゆっくりと入浴してから船に戻りました。谷地頭温泉は、市営温泉で、入浴料も 460 円と銭湯並みの安さです。鉄分を含んだ茶色のお湯が体を温めてくれるお気に入りの温泉です。タクシーの運転手さんに「クルーズで来るお客様でこの温泉を知っている人は珍しいですよ」と言われてしまいました。

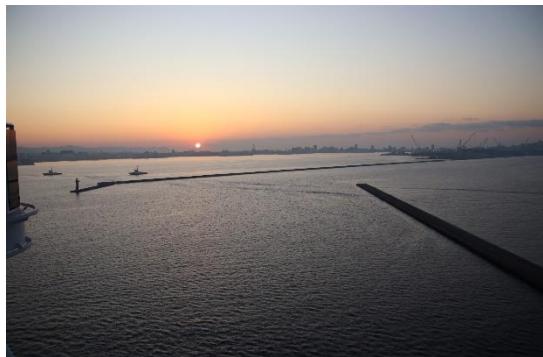
さて船は 18 時に函館港を出港して、秋田港に向かいました。この日の夕刻からは、イタリアディとのことで、国旗の色にちなんだ赤、緑、白の衣装が推奨されていました。18 時から、ロンドンシアターではイタリア人テノール歌手による独唱があり盛り上がりいました。

夕食の前に、シャンパンバーで食前酒を楽しみました。セカンドシーティングは 19 時半～20 時から各レストランで始まりますが、この日はイタリアディらしくイタリア料理一色でした。

インターネットで調べると、今年の函館港へのクルーズ客船の入港は 58 隻だそう。ずいぶん増えていて、16～17 万総トンの大型船の入港も多いようです。



函館港に入港する「MSC ベリッシマ」の船上から函館山の姿が見えました。



いよいよ函館港への入港です。



津輕海峡フェリーのターミナルには「ナッチャン World」と「ブルールミナス」が停泊していました。



青函フェリーのターミナルには「はやぶさII」が、朝日の中で逆光ですが見えました。



大間からの「大函丸」が入港してきました。



出港した「はやぶさII」と、青森から到着する「あさかぜ 23」が沖合でクロスするのが見えました。



入港する「ブルーハピネス」です。



「ブルーハピネス」は、「ナッチャン World」の隣の桟橋に着岸しました。



夜のロンドンシアターではイタリア人テノール歌手の独唱会が開催され、満席の乗客のスタンディングオベーションを受けていました。

クルーズ 4 日目

朝起きて 18 階の展望ラウンジに上がると、外は雨。MSC ベリッシマはすでに秋田港に着岸して、隣の岸壁から新日本海フェリーの敦賀～新潟～秋田～苦小牧航路の「らいらっく」が出港していくのが見えました。港には 20 基余りの風力発電機が林立しており、その一部は洋上型です。また、港は木材の積出港で、たくさんの丸太が山積みになっていました。

11 時頃に船を降りて、ジャバネット手配の循環バスで秋田駅まででかけ、「はたはたのしょつつる鍋」と「きりたんぽ」の地元料理を楽しみました。

帰りは JR 秋田駅から秋田港駅まで運航されているクルーズ列車に乗車してみました。20 分ほどの短い列車旅でした。この列車はジャパネットの完全チャーターで、上り便が午前中に 3 本、下り

便が午後に4便運航され、乗客は無料でした。秋田港駅からは「MSC ベリッシマ」の付く岸壁まで徒歩で10分ほどの近さでしたが、アクセスバスが用意されていました。

秋田港のクルーズターミナルの中では、地元の銘品の販売が行われていました。ちなみに、今年の同港へのクルーズ客船の寄港は27隻で、今回の「MSC ベリッシマ」の寄港が最後とのことででした。

17時に船は秋田港を出港しました。この日のロンドンシアターでのショーはプロダクションショーで、そのタイトルは「トータル・ディーヴァー」で、海外の著名な女性歌手の歌のメドレーでした。ショーは18時、19時半、21時からの3回行われました。

21時半からは、プロムナードで60~70年代の懐かしい音楽の演奏が行われて、踊りの輪が広がっていました。また18階の展望ラウンジでもピアノと歌の生演奏があり、結構の人数の観客がアルコールを片手に楽しんでいました。



秋田港に入港すると、新日本海フェリーの北海道航路フェリー「らいらっく」が出港していくのを船上から見送ることができました。



秋田港にはクルーズターミナルの建物ができていました。



クルーズターミナルの内部です。夕方からは物産店がでて、出港間際の乗客がお土産を求めていました。



秋田駅からは秋田港クルーズ列車が運航されていました。今回はジャパネットの完全貸し切りで秋田港まで20分のダイヤでした。秋田港駅からクルーズ船までは近いのですが、列車に合わせて連絡バスも用意され、ちょうど雨が降っていたので乗客からは感謝の言葉が聞かれました。



ロンドンシアターではプロダクションショーとして海外の女性歌手の歌のメドレーが、3回上演されました。



60~70年代の懐かしの歌の生演奏で盛り上がり、22時を過ぎても船内は賑やかでした。



